

# はっぴー在宅介護支援センター

在宅の高齢者を介護される方が安心して暮らしていただけるように介護、保健、福祉の総合相談をお受けします。また、必要に応じ訪問や各機関と連携をとり、サービスがスムーズにご利用いただけるよう支援します。

お問い合わせ相談は電話 **87-2010**



「どうぞお気軽に」

## 主なサービス内容

- 介護保険制度に関する相談、申請手続きの代行
- 自立支援型サービス利用申請手続きの代行
- 介護用品の展示と紹介
- 介護方法についての指導、助言等
- 介護講習会
- 高齢者の実態把握
- 関係機関との連絡調整



## 介護者教室のご案内

- いつ/9月5日(木)・9月29日(日) 午後1:30~3:30
- どこで/はっぴーデイサービスセンター
- 内容/口腔ケア、水分補給、食事介助 その他参加者のご希望に添います。施設見学を兼ねてご参加下さい。詳しくは、はっぴー在宅介護支援センターまで。

## 平成13年度社会福祉法人白鷹福祉会決算状況

一般会計 白鷹福祉会合算(本部・白光園・白光園DSC・はっぴーDSC・白鷹陽光学園)

貸借対照表(平成14年3月31日現在) (単位:千円)

資産の部		負債及び純資産の部	
流動資産	546,074	流動負債	79,342
固定資産	2,838,813	固定負債	433,385
		負債の部合計	512,727
		基本金	700
		国庫補助金等特別積立金	2,345,576
		その他の積立金	316,086
		次期繰越活動収支差額	209,798
		純資産の部合計	2,872,160
資産の部合計	3,384,887	負債及び純資産の部合計	3,384,887

事業活動収支計算書(自平成13年4月1日 至平成14年3月31日)

事業活動支出	938,374	事業活動収入	1,098,148
事業活動外支出	23,623	事業活動外収入	23,528
特別支出	363,176	特別収入	4,656
計	1,325,173	計	1,126,332

当期繰越活動収支差額計	△198,841
前期繰越活動収支差額	468,639
その他の積立金積立額	60,000
次期繰越活動収支差額	209,798

※詳細は法人事務所において閲覧等の方法により開示します。

## 社会福祉法人白鷹福祉会

### 役員紹介

- |             |      |
|-------------|------|
| 理事・監事       | 評議員  |
| 理事長 小川利行    | 寛子   |
| 理事長 新野晃敏    | 稔太郎  |
| 理事 渡部正三郎    | 源みゆき |
| 理事 高橋一二三    | 豊宗一  |
| 理事 竹田恵一     | 正邦勝  |
| 理事 本木勝利     | 喜子   |
| 理事 重野ちえ子    | 琢陽しげ |
| 理事 原田良子     | 慎一郎  |
| 理事 村上辰雄     | 夫    |
| 理事(園長) 打田和夫 | 京子   |
| 監事 江口諄一     | 周    |
| 監事 新宮勲夫     | 洋    |
|             | 智    |
|             | 樋口   |



## 全人的かつ包括的医療を提供

白鷹町立病院 院長 高橋 一二三

我が国は、いまだかつて世界中のどの国も経験したことのないスピードで高齢社会に突入しており、今後は75歳以上のいわゆる後期高齢者が著しく増加することが予測されています。また、2000年から始まった老人保健事業の第4次計画、介護保険の実施など、高齢者医療を取り巻く支援する環境が大きくプラスの方向に転じてきました。しかし、いまだに病的な臓器を正常化する、徹底的に延命することが高齢者医療の中心であるとの考えかたも続いている。高齢者を全人的かつ包括的に診ているわけではありません。診ているのではありません。いわゆる「木を見て森を見ず」後期高齢者はひとりではなく、つもの病気を持つていくと、時に、高齢者に特有な病態、具体的には痴呆、転倒、混迷、失禁などを抱えていることが多く、高齢者の医療においてはこれら病態に対しての対応が極めて重要となります。しかしながら我が国においては、成人を対象とした臓器別専門医療が、高齢者においてもそのまま行われているのが現状です。それは個々の臓器の病ご指導ご協力を宜しくお願いたします。

先生(町立病院内科)、金内先生(町立病院外科)、林先生(山大神科)計4人の医師が毎週診療をおこなっており、今後も白光園職員の方々も助け合い、全人的かつ包括的医療を提供できるよう努力してまいりますので、皆様の指導ご協力を宜しくお願いたします。



外山 義 (とやま ただし)1950年生 京都大学大学院工学研究科教授 工学博士

## これからの施設利用者 支援のあり方

6月27日に外山義先生(京都大学大学院)をお招きして御講演をいただきました。これからの施設利用者支援に際し、職員に求められるものは、意識改革であり、まず、一人でも、少しずつでもいいから、やれることから始めていくことが大事、ということでした。そして、実際かかわった施設のビデオやプロジェクトを使い、わかり易く、しかも強い説得力をもってお話をいただきました。職員や列席した理事の方からも活発な意見、質問等出され、参加者一同大変実のある、また自分を省みさせられる講演となりました。



プロジェクターにて説明をする外山先生